

2010年サケ・マス類

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量																
	漁獲(生産)			加工 塩蔵	輸入 生冷	輸出 生冷	東 京			缶詰	消費支出		年末 在庫	日露 協定	アキ サケ	北海 道	本 州
	サケ	マス	養ギン				生	冷	塩蔵		生(%)	塩(%)					
21	205.7	18.5	15.8	95.7	240.3	55.6	7.0	32.2	11.9	3.5	3,149	1,614	106.8	9.7	197.3	158.3	39.0
22	145.4	14.7	14.8		235.2	65.2	6.6	37.5	10.8		2,931	1,669	89.1	11.5	154.4	127.8	26.5
%	71	79	94	0	98	117	94	116	91	0	93	103	83	118	78	81	68

年	価 格									
	秋 サケ	北海 道	本 州	輸 入	輸 出	東 京			消費支出	
						生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
21	319	332	266	554	236	809	579	731	4,136	2,128
22	353	342	407	610	276	892	599	759	3,903	2,032
%	111	103	153	110	117	110	103	104	94	95

漁 獲 量

22年の北洋サケ・マス漁業は、ロシア200海里枠が中型船5,840トン（前年：4,480トン）、小型船2,607トン（前年：2,400トン）で中型船、小型船とも増加した。入漁料は中型・小型とも前年（304円/kg）並みであった。また、割当枠はベニ前年同様、トキ・マスが増加であった。またオホーツク建マスは不漁でかなり減少した。

日本200海里枠は2,855トンで前年（カラフトマス主体2,855トン）並みであった。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道3,648万尾（前年：4,546万尾）、本州803万尾（前年：1,204万尾）、トン数では北海道12.7万トン（前年：15.8万トン）、本州2.65万トン（前年：3.9万トン）であった。北海道、本州とも前年を下回る低調さであった。

価格は、北海道での漁が低調さもあって、前半の安値から一転後半高騰した結果前年をやや上回った。また本州では北海道の後半の高騰を受けて堅調に推移した。

魚体は、北海道3.50kg（前年：3.48kg）、本州3.31kg（前年：3.24kg）で、今年は北海道、本州とも前年よりやや大きかった。

国内養殖銀ザケは、1.48万トン（前年：1.58万トン）でやや減産となった。

輸 出 入

22年のサケ・マス輸入量は、23.5万トンで前年（24万トン）を僅かに下回った。

本年、天然ではベニが前年をかなり上回ったが、養殖物ではギンが引続きやや減少、トラウトも減少した。また、冷凍フィレーは前年を上回った。

天然物の国別輸入量は（全てのサケ・マス類、フィレーを除く）、米国2.2万トン（前年：2万トン）、カナダ6.3千トン（前年：0.8千トン）、ロシア2.5万トン（前年：2.2万トン）で米国・ロシアが増加、カナダが大幅増加となった。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケの輸入は、依然一時ほどの伸びはないものの天然ものを遥かに凌駕している。また、世界的にも堅調なEU、米国、中国等の需要も伸びているが、本年は前年来のリーマンショ

ックの影響も薄らぎEU、米国、中国等の伸びがあり、ノルウェーの養殖サケ（アトラン主体）の国内搬入はやや減少した。本年の国別輸入量はチリ10.7万トンで前年（12.1万トン）を下回った。ノルウェーはEU需要の低迷もあって2.3万トンで、前年（2.6万トン）を上回った。またニュージーランド（生・冷）、デンマーク（冷）、オーストラリア（生）等からの輸入は引続きみられているが、量的には少ないことに変わりはない。

輸入価格は、610円で引続きチリ銀の上げもあって前年（554円）を上回った。

また、近年まとまった輸出がみられていた秋サケは、依然旺盛な中国需要がみられ増加基調が続き、6.5万トンと前年（5.6万トン）を上回った。

輸出先は、依然中国5.6万トン（前年：約4.7万トン）で本年も前年並みの86%のシェアであった。続いてタイ4,981トン（前年：4,166トン）、ベトナム2,542トン（前年：2,837トン）、台湾551トン（前年：678トン）、韓国72トン（前年：72トン）でタイが増えたほかはやや減少か前年並みであった。

また輸出価格は、国内価格の高騰と中国需要も依然強く、前年（236円/kg）を上回る276円/kgであった。

総供給量

本年は秋サケ、建マス、輸入量が減少した結果、総供給量は、前年をやや下回る46万トンとなった。

単位：トン

	21年	22年	対比（%）
総供給量	526,500	462,800	88
沖獲漁獲量	10,100	11,700	116
秋サケ漁獲量	197,000	154,400	78
建マス漁獲量	14,500	10,500	72
銀ザケ漁獲量	15,600	14,800	95
輸入量	240,300	235,200	98
期首在庫量	104,600	101,400	97
輸出	55,600	65,200	117

消費地入荷量と価格

サケの東京消費地入荷量は、生6.6千トン（前年：7千トン）、冷3.8万トン（前年：3.2万トン）、塩1.1万トン（前年：1.2万トン）であった。

本年の入荷の特徴は、北海道・三陸の秋サケ漁の不振があって、生鮮の減少が顕著であったが、冷凍原料はかなり増加したことである。

平成年代に入って順調に伸び定着してきた生秋サケは、切り身、生フィレーでの販売が全国的に定着しているが、本年は不漁の影響を受けて前年をやや下回った。こうした結果は家計支出にも反映され生は数量・金額とも減少した。

価格は、生892円（前年：809円）、冷599円（前年：579円）、塩759円（前年：731円）と原料価格の上昇と産地不振を反映した価格の推移となった。